

====内田研究室案内====

教員名：内田 由紀子 教授 （京都大学人と社会の未来研究院）

問い合わせ先：以下をよくお読みになった上で、受験希望者用フォーム
（<http://goo.gl/forms/mBOUGcrVpZ>）よりお問合せください。

***国費留学プログラムを除いて研究生は受け入れておりませんので、研究生受け入れについての問い合わせにはお答えできません。ご了承ください。**

研究の概要：

文化心理学の研究室です。手法としては社会心理学（実験・調査系）です。国際比較研究や、社会心理学実験、国内の企業や地域へのフィールド調査などを実施しています。国際共同研究が主なため、研究室には留学生や海外からのポスドクや短期滞在の研究者が多数おり、現在ゼミは主に英語で行っております。実験社会心理学の手法を用いて実施しますので、心理学の基礎的な知識、実験実習の経験、統計解析のスキルが求められます。

大学院について：

内田教授の所属は京都大学人と社会の未来研究院ですが、協力教員として京都大学大学院人間・環境学研究科において院生指導を行っており、修士課程・博士課程の学生の指導にあたっています。大学院入試は人間・環境学研究科で受験して頂きます。学生の所属も人間・環境学研究科（認知・行動科学講座）となります。

修士課程のみでの卒業について：

内田研究室では、地域コミュニティや会社・組織における風土・文化やそれらと幸福感等との関わりといった、実社会での問題に対して、文化・社会心理学の理論・手法を用いてアプローチすることも行っています。修士課程でこのようなプロジェクトに関わりながら、文化・社会心理学の理論や手法を学び、卒業後実社会でそのスキルを生かすという進路を考えておられる方も歓迎します。

大学院入学前にデータを扱う実証系心理学（事例研究を除く）での研究論文（卒業論文）を書いた経験がある方、書く予定がある方以外は現在受け入れておりません。

博士後期課程への編入について：

原則として修士からの5年一貫の大学院指導が主体であり、博士後期課程については、修士課程からの内部進学者と国費留学生が優先されますので編入は基本的に受け入れません。

上記内部進学者等で研究室の定員が充足していない場合に限り、文化心理学・社会心理学に関連する分野での修士号を終え、一定の研究業績を持つ人については、編入試験を受けていただけるかどうかを検討しますので、まずは事前にご相談ください。

最近のテーマ：

感情、ウェルビーイング、社会生態学的環境や文化と心の関係、文化変容・伝達
社会構造（社会階層）と認知
企業文化・地域文化 など
機械学習等の手法を用いた上記のテーマへのアプローチも行っています。

募集予定学生：

- ・ **大学院の入試の専門科目を心理学で受験できる学生**。大学院入学後の研究の知識として必須であるため、社会心理学分野に習熟していること。社会心理学・文化心理学の理論に基づいて研究を行い、また理論に貢献する研究を行うことを目指していただきます。
- ・ 心理学の方法論について**学部の実験・調査実習を履修している程度のスキルを有していること**。心理学では、教科書に書かれている理論や現象についての知識に加えて、その理論を検証したり現象を示したりするための方法論の習得が必須です。
- ・ 文化心理学はコラボレーションが基本です（特に国際共同研究）。また、内田研究室は学際研究や産学連携を進めています。いろいろな人とコミュニケーションしてみようというモチベーションをもつ学生を希望します。
- ・ ゼミは英語で行われています。また、大学院入試においても英語の一定以上のレベルが必要です。聞き取りやスピーキングなどは入学後に身につけてもらえれば大丈夫ですが、現状においても英語文献を読むことやコミュニケーションを英語で行うことへの向上心がある学生を希望します。
- ・ **実験・調査手法を用いる際に統計分析は必須です**。心理統計法の基礎知識と実際に分析を行なった経験がある学生を希望します。
- ・ 内田研究室でどのような研究が行われているのかを調べ（論文を読むなど）、自らがどのようなテーマで研究を行ってみたいかを考えたうえで、受験までに一度問い合わせフォーム（<http://goo.gl/forms/mBOUGcrVpZ>）にてご連絡ください。内田研究室では、上記のスキルとモチベーションに加えて内田研で行われている研究との興味のマッチングも重視しています。

大学院入試の参考文献

＊このリストは、ここから出題されることを保証するものではありません。

文化心理学の基礎と理論

書籍

「これからの幸福について：文化的幸福観のすすめ」 内田由紀子 新曜社
Uchida, Y., & Rappleye, J. (2023). Happiness: A World Map. In *An Interdependent Approach to Happiness and Well-Being* (pp. 19-33). Cham: Springer International Publishing.
(リンクから無料ダウンロードできます：<https://link.springer.com/book/10.1007/978-3-031-26260-9>)

「社会心理学概論」 北村英哉・内田由紀子 ナカニシヤ出版

「わたしから社会へ広がる心理学」 金政祐司・石盛真徳 北樹出版

「社会心理学社会心理学—社会で生きる人のいとなみを探る (いちばんはじめに読む心理学の本)」 遠藤
由美 ミネルヴァ書房

「社会心理学」池田謙一他 有斐閣

「社会心理学キーワード」 山岸俊男 有斐閣

「文化心理学」上下 増田貴彦・山岸俊男 培風感

「心理学研究法 5 社会」 岡隆・大山正 誠信書房

“Cultural Psychology” Steven J Heine

“Culture of Honor” Nisbett & Cohen

論文 (本当は読んでもらいたいものはもっとたくさんありますので、上記の文化心理学の本で引用されているものなどを参照してください)

・ Markus, H. R., & Kitayama, S. (1991). Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological review*, 98, 224-253

・ Uchida, Y., Nakayama, M., & Bowen, K. S. (2022). Interdependence of emotion: conceptualization, evidence, and social implications from cultural psychology. *Current Directions in Psychological Science*, 31(5), 451-456.

・ Kitayama, S., Park, H., Sevincer, A. T., Karasawa, M., & Uskul, A. K. (2009). A cultural task analysis of implicit independence: comparing North America, Western Europe, and East Asia. *Journal of personality and social psychology*, 97, 236-255

・ Uskul, A. K., Kitayama, S., & Nisbett, R. E. (2008). Ecocultural basis of cognition: Farmers and fishermen are more holistic than herders. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 105, 8552-8556.

・ Kitayama, S., Ishii, K., Imada, T., Takemura, K., & Ramaswamy, J. (2006). Voluntary settlement and the spirit of independence: Evidence from Japan's northern frontier. *Journal of personality and social psychology*, 91, 369-384

・ Kitayama, S., Duffy, S., Kawamura, T., & Larsen, J. T. (2003). Perceiving an object and its context in different cultures A cultural look at new look. *Psychological Science*, 14, 201-206.

・ Uchida, Y., Kitayama, S., Mesquita, B., Reyes, J. A. S., & Morling, B. (2008). Is perceived emotional support beneficial? Well-being and health in independent and interdependent cultures. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 34, 741-754.

・ Uchida, Y., & Kitayama, S. (2009). Happiness and unhappiness in east and west: themes and variations. *Emotion*, 9, 441-456.

・ Uchida, Y., & Ogiwara, Y. (2012). Personal or interpersonal construal of happiness: A cultural psychological perspective. *International Journal of Wellbeing*, 2, 354-369.

・ Norasakkunkit, V., & Uchida, Y. (2011). Psychological consequences of postindustrial anomie on self

and motivation among Japanese youth. *Journal of Social Issues* 67, 774-786.

・ Uchida, Y., Takemura, K., Fukushima, S., Saizen, I., Kawamura, Y., Hitokoto, H., Koizumi, N., & Yoshikawa, S. (2019). Farming cultivates a community-level shared culture through collective activities: Examining contextual effects with multilevel analyses. *Journal of Personality and Social Psychology*, 116(1), 1-14.

その他

統計は、t-test, 相関、カイ 2 乗検定などはもちろんのこと、ANOVA, 重回帰分析、因子分析（が、それぞれどういうときに使って、どのようなリサーチデザインに対応しているのか）を理解できるようにしてください。

Advanced（心理学研究法の教科書）

Research Design Explained Mitchell & Jolley